「常総ふれあいの杜」広報誌　№11　2011年　春号（季刊）

ふれあい通信

社会福祉法人
日本キングス・ガーデン

常総広域障害者支援施設
『常総ふれあいの杜』
常総市大生郷町1880番地
Tel　0297−27−5016
Fax　0297−27−5045
www.kings-garden.or.jp
発行責任者　藤原裕也
編集員　広報委員会

自然の恵みの中で

理事長代理　宇都宮和子

桜前線は今、東北の町へ移り、少しずつ前進する足音と笑顔が感じられる季節となりました。ふれあいの杜ガーデンでは、ここ一ヶ月前後で、桜の開花を心待ちにしていた利用者やお年寄りがテーブル・椅子を持ち寄り、ガーデンの桜の木の下でお茶をのんだり、ふれあいコンサートで歌や踊りを披露したりと楽しい時間を過ごしました。

東日本大震災から一ヶ月が経ちました。震災の被害にあわれた方々に対し、お見舞いの言葉をかけることしかできないもどかしさを感じながら、日々の業務に追われる自分がいます。

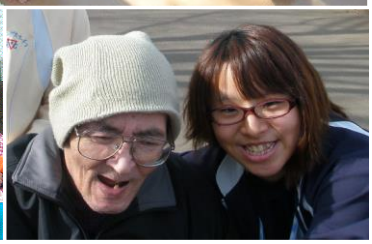
震災の影響で、ガーデンの建物や設備にも大きな被害がでました。ガーデンの建物は、震度6強の揺れに耐えられるように設計されていますが、震度7の揺れを経験したことがありません。ガーデンの建物は、震度7の揺れに耐えられるのか、ガーデンの建物の安全性を確認するために、専門家による建物の調査が行われました。

ガーデンの建物は、震度7の揺れに耐えられるように設計されていますが、震度7の揺れを経験したことがありません。ガーデンの建物は、震度7の揺れに耐えられるのか、ガーデンの建物の安全性を確認するために、専門家による建物の調査が行われました。

ガーデンの建物は、震度7の揺れに耐えられるように設計されていますが、震度7の揺れを経験したことがありません。ガーデンの建物は、震度7の揺れに耐えられるのか、ガーデンの建物の安全性を確認するために、専門家による建物の調査が行われました。

ガーデンの建物は、震度7の揺れに耐えられるように設計されていますが、震度7の揺れを経験したことがありません。ガーデンの建物は、震度7の揺れに耐えられるのか、ガーデンの建物の安全性を確認するために、専門家による建物の調査が行われました。

スナップフォト



お花見

すっかり暖かくなり、桜も満開に春爛漫の日々を迎えました。

二ットたのごとで、天気の良い日には各ユニットに軽費前の桜もとお花見に行き、余暇時間にも綺麗に咲いたテーブルを囲み、お茶菓子を食べたりジュースを飲んだりしながら写真を撮ったり談笑する中で、素敵な笑顔を沢山見ることができました。

桜はすぐに散ってしまいますが、この桜のひと時ずっと残ることと思います。

（武藤）

ポップサーカス

（在宅）

デイサービスで三月にイースターにちなんだポップサーカスを観覧しましたが、雑技団風のものや、動物、ピエロ等の、綱渡り等が行われました。小さなサーカスでしたが、参加された方は、三月十一日に参加されたご利用者にきくと「とても楽しかった」との声がありました。

まだ、地震の時は休憩時間中だったので幸いでしたが、震災の途中に余震もなく無事に帰宅出来ました。

東日本大震災で被害を受けた方々に対し、お見舞いの言葉をかけることしかできないもどかしさを感じながら、日々の業務に追われる自分がいます。

（大澤）

※ボランティアに感謝します。

喫茶／片庭百子様、須田晶子様、中山小夜子様、安田春江様　音楽／山田国昭様

五感で味わう

（かし）

かしでは、色々な五感で味わえるような空間作りや、御利用者一人一人何かが楽しみであるのか、日々の生活の中から観察して、外出等での触れ合いで感じるものが少しでも多くなるよう支援したいです。

又、御利用者の健康状態に充分に注意します。日々の生活の中で様子の変化に気付き、素早く対応が出来るよう職員の知識や医療面でも連携して、安全な環境作りの提供を重点に快適に過ごして頂けるようにします。

（佐々木）

ふれあいを楽しむ

（さくら）

さくらでは、ご利用者、ご家族、支援員と情報を共有し、さまざまな発見や支援に繋げられるよう取り組んで参ります。また、ユニット内の装飾や、ご利用者の写真等、華やかなユニットにしていくため、ご利用者と一緒に創作していきます。今年度はいろいろなことにチャレンジの年にしていきます。宜しくお願い致します。

（飯塚）

笑顔あふれて過ごす

（もくせい）

今年は「たくさん笑う」一年間を目標としています。ご利用者の視点に立ち、心から喜べるイベントを企画していき、積極的に外出し、ユニット内においても感性豊かな催し物を行い、ご利用者と職員共に笑顔の絶えないように過ごす為には健康であることが一番ですので、日々の生活に細心の注意を払い一日一日を大事に過ごします。

（皆川）

温泉に行こう！

（ふじ）

前年度ふじでは「白寿荘」で、一泊の宿泊を、体験させて頂きました。今年度もご家族のご支援、ご理解を受けながら、秋頃に一泊旅行に行くことができればと考えています。一人一人が出来ることを見つけて、日常生活の場面で、役割を分担し自信や達成感を感じて頂ける様、支援していきます。また、外出外食を計画し、多様な経験をする事により店舗での食事、移動に慣れていきます。

（今野）

健康で、穏やかな生活

（まつ）

今年度も、外食や外出などの計画を行ない、充実した毎日を送って頂きたいと考えております。特にご利用者の体調の変化に留意し、健康な生活が送れるような、支援を行います。また、今年に入りつでは出会いと別れがあり、環境の変化に戸惑うご利用者もいらっしゃいますが、新しいメンバーが加わりさらに楽しい毎日を過ごして頂ける様に頑張ります。

（串戸）

気持ち伝えて、余暇充実

（けやき）

今年度のけやきは、ご利用者一人一人の意思決定の機会を増やしていきたく、ニーズに合った形で余暇時間の充実を計っていきます。又、ご利用者の体調や心の気付きが、日々の生活の中で最も重要だと感じました。安心して生活できる支援、安全に暮らせる環境を作っていけるよう取り組みます。

（大嶋）

日々の喜び

「見上げてごらん夜の星を」という歌を、最近テレビやラジオでよく耳にする。ふれあいの杜でも皆でうたっている馴染みの歌であり、今日もうたっている。

地震の日、全員集まり夜までホールで過ごした。大きな余震が続き不安も抱えた。しかし手をつなぐ仲間がすぐ横に居ることで安心さえ覚えたのだと思う。ふれあいの杜は、全員が家族であるその日そのものだと確信した。

差し込む春の暖かな日の中、歌声を掻き消す爆音。空を見上げれば自衛隊のヘリコプターが飛び交う。被災地の一刻も早い復旧を祈っている。

（文倉）

✍編集後記／震災で、毎日の生活が当たり前ではない、という事に改めて気づきました。一日も早く安心して暮らせます様、お祈りしています。